

## 日高変成帯パンケヌシはんれい岩体における2タイプのマイロナイト化作用

## Two types of mylonitization in the Pankenushi gabbroic body of the Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, Japan

播磨 雄太 [1]; # 豊島 剛志 [2]; Raimbourg Hugues[3]; 小松 正幸 [4]  
Yuta Harima[1]; # Tsuyoshi Toyoshima[2]; Hugues Raimbourg[3]; Masayuki Komatsu[4]

[1] 新潟大学・大学院自然科学; [2] 新潟大学・大学院自然科学; [3] 東大・理・地惑; [4] 愛媛大・理・生物地球圏科学  
[1] Grad.Sch.Sci.&Tec.,Niigata Univ.; [2] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ.; [3] Dpt. Earth Planet. Sci., Univ. Tokyo; [4] Dept. Earth Sci., Fac. Sci., Ehime Univ.

北海道日高変成帯に発達するパンケヌシハンレイ岩マイロナイトは、グラニュライト相条件下(800 - 900 )で形成された高温マイロナイトと角閃岩相高温部条件下(約 650 )で形成された低温マイロナイトに分けることができる。前者はパンケヌシハンレイ岩体中の広い地域で発達し、連続性がよい。後者は同岩体西部で局所的に発達し、狭長である。また、場所によっては、低温マイロナイトのマイロナイト面構造が高温マイロナイトのマイロナイト面構造を切断することがある。低温マイロナイトには含水鉱物の出現が認められ、反応軟化によって変形集中・変形促進が起こったと考えられる。